

## 『堺市實測明細図』

明治 30 年 川崎友次郎（製図） 石西尚一（発行兼印刷人） 46 cm×56 cm

関西大学図書館蔵

菅原洋一の『明治期商家銅版画資料に関する歴史情報学的研究』（三重大学、2013 年）によると、明治 16 年から 24 年にかけて、堺の川崎源太郎が銅版画による商工案内など 30 数点を出版し、当時のこの種の出版物の最大の存在であったという。源太郎は三人兄弟で、実弟の一人が末吉、おもちゃ絵で知られる川崎巨泉である。友次郎については不詳だが、地図は銅版画であることから、川崎三兄弟の次男であろう。

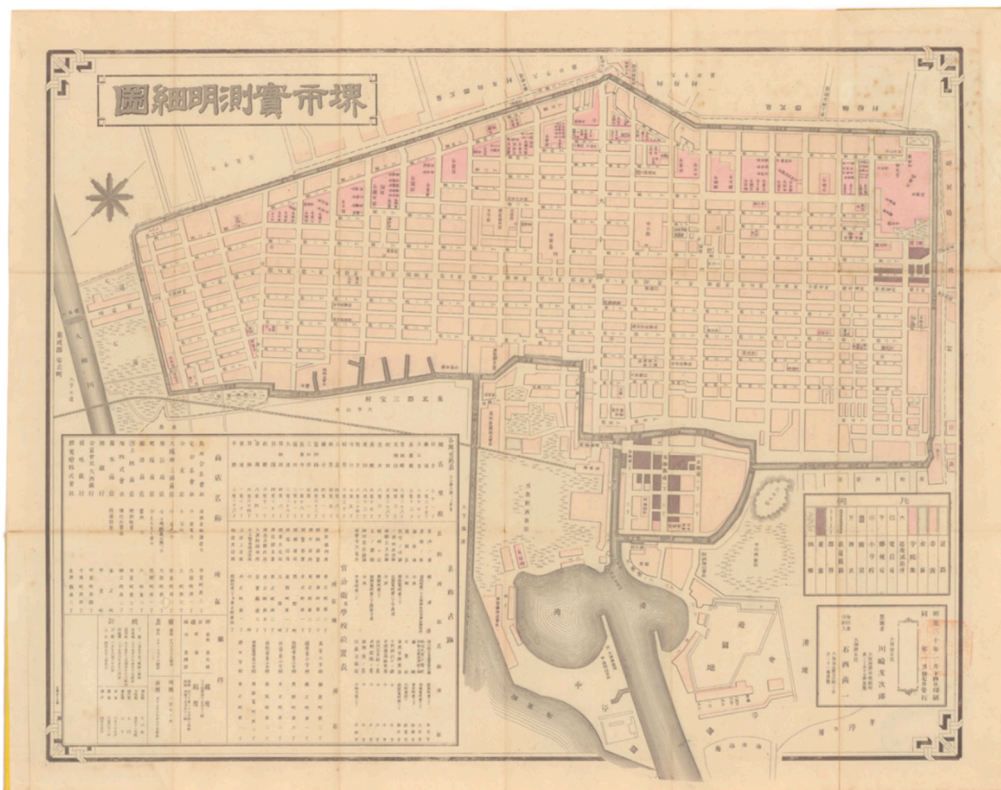
旧環濠内の堺市内の「明細図」で、丁名ばかりではなく、旧環濠にかかる橋の名前、主要会社の名称、そして寺院の名称がほぼすべて記載されている。日本初の喜劇役者曾我廼家五郎の生家である浄因寺も記載されている。旧環濠西側に寺院が密集している様子がよくわかる。当時の「寺院配置図」としては、一級の資料である。

大浜公園一帯が「遊園地」と記載され、海水浴場の手前に、「丸三」、「一力」、「丸万」、「川芳」、「八万角」、「茅渟」と料亭旅館の名前が記載されている。明治 30 年、まだ水族館などは建設されていない。堺港入口には「水上警察」、「入津料徴収所」があるが、『堺市全図』にある「税関出張所」はない。

鉄道は現在の南海本線のみ、それも「停留所」、今の堺駅が終点となっている。停留所を出て環濠を渡ると、栄橋通、竜神橋通に至り、「凡例」を見ると「遊郭」として色が塗られている。もう一カ所、南宗寺西側の南旅籠町の一角が「遊郭」となっている。現在阪堺線が通っている紀州街道沿いも、他の道筋と同じような大きさである。地図全体を見ると、碁盤の目のように整然と区画整理されていることがよくわかる。

「各地へ里程表（大小路元標ヨリ起算）」、「名称古跡」（「名勝」ではない）、「官公街及学校位置表」、「商店名称所在」（地図に記載される商店）、「雑件」（経緯度など）、「統計」などが記載される。人口は 47205 人、11636 戸、銀行 7 行、会社 30 社、商家 6037 戸、農家 361 戸、漁戸 470 戸。漁師の方が多く、市内では農作業はできないから戸数が少ないのは当然だが、それでもこれだけの農家があった。神社は 16 社、寺院は 151、10 倍近い。商家 6037 戸のうち、酒造、刃物などの、いわゆる「伝統産業」がどれだけあったのだろうか。

与謝野晶子は明治 11 年生まれ、この地図が出版された年は 19 歳で、甲斐町にある実家の伊勢屋で店番をしつつ、和歌を同人誌に投稿している頃である。3 年後に、浜寺公園で与謝野鉄幹と出会うことになる。この頃、櫛屋町西の酒造家の 17 歳の少年が、後の「食満南北」、歌舞伎の座付作家。喜劇王曾我廼家五郎は明治 26 年に浪花座で初舞台を踏み、明治 37 年、曾我廼家兄弟劇が宿院でも上演を果たすことになる。



・堺市旧市街北東側（左から三つめの「浄因寺」は曾我廼家五郎の母の実家）